

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

M I M（特殊音節に対する多層指導モデル）を中心とした学習障害等の困難を抱える児童の早期発見，早期支援体制づくりとユニバーサルデザインの授業づくりの推進

2. 問題意識・提案背景

文部科学省より平成19・20年度「発達障害早期総合支援モデル事業」の委託を受け，5歳児健診や幼保小の連携，教職員の資質向上等を通して，発達障害の早期発見，早期支援の体制を構築した。

平成21年度より市単独事業として「発達障害早期総合支援事業」に取り組み，就学相談体制の整備，年長児巡回相談の実施等，改善を重ねている。

取組の中で，早期支援体制が徐々に整備されているが，「愛着障害」と「学習障害」への対応が課題となってきた。そうした中，平成25年度は「愛着障害」への対応として「スクールソーシャルワーカー」の配置，「学習障害」への対応として「学習障害等支援モデル事業」を実施してきた。

1年間の取組を通して，特に「学習障害」の課題が広範囲であることが明確となった。本事業では「学習障害」の早期発見，早期対応を通して，学校不適応児童生徒の減少を目指した。

3. 指定校について

（小学校の場合）

指定校名：大田原市立西原小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	147	5	155	5	164	5	162	5	158	4	165	5
特別支援学級	3	0	4	0	4	1	5	1	7	1	4	1
通級による指導 の対象者数	1		4		8		2		3		8	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	2	40	2	9	0	2	13	1		18	88

指定校名：大田原市立金丸小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	8	1	15	1	14	1	16	1	14	1	23	1
特別支援学級	0	0	3	0	2	0	2	0	3	1	1	1
通級による指導 の対象者数	0	0	0		0		0		1		0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援 教諭	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	10	1	1	0	1	3	0		4	22

4. 指定校における取組概要

学習障害等学習に困難を抱える児童の早期発見と早期支援体制を構築するため、大中規模校のモデルとなる西原小学校、小規模校のモデルとなる金丸小学校を指定校にして下記の取組を行った。その際、事業全体のアドバイザーであるアドバイザーA 1名は指定校及び希望校に41回訪問した。通級指導のアドバイザーであるアドバイザーB 1名は西原小学校に177日勤務した。アセスメントのアドバイザーであるアドバイザーC 2名は指定校を中心に11日訪問した。

(1) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童を含む全ての児童が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善

ア. 小学校低学年におけるMIMによる特殊音節の指導方法の工夫

イ. 発問や指示の明確化、学び合いの位置づけ、振り返りの重視等によるユニバーサルデザインの授業づくりの推進

(2) 補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮による指導方法の工夫

ア. 朝の学習における児童の課題に沿った学習支援の工夫

イ. MIMカードを用いた特殊音節の個別指導の実施

ウ. タブレットパソコン、DS等ICTを活用した個別学習の工夫

エ. 通級指導教室を活用した指導の工夫（西原小）

(3) 適切な実態把握等による早期支援の実施

ア. MIM-PMテスト（読みのアセスメント）、『小学生の読み書きスクリーニング』による学習に困難のある児童の早期発見の工夫

イ. 「読み書きチェックリスト」（アドバイザーC作成）を活用した学習に困難がある児童の早期発見の工夫

ウ. 教職員のWISC-IVを活用した児童の特性理解と指導方法工夫

エ. 複数のアセスメントを活用した保護者への支援方法の説明等による保護者との連携の工夫（金丸小）

5. 主な成果

本市では、指定校を中心に全校で本事業に取り組んでおり、発達障害支援アドバイザーも指定校2校以外の希望校にも訪問している。指定校の取組と同様の取組を行う学校も数校あり、相乗効果が見られる。主な成果は以下のとおりである。

(1) 教職員の意識の変容

- ア. 通常学級における一斉指導では、教師が気づいている以上に学習が困難な児童生徒がおり、授業のユニバーサルデザイン化の必要性への意識が高まっている。(小中学校)
- イ. MIMのアセスメントやWISC-IVにより、流暢に読めていない児童の実態と背景を学級担任が明確に把握することができ、個別支援の必要性を明確に感じるようになってきている。(小学校)

(2) 通常学級での授業のユニバーサルデザイン化の推進

- ア. 児童が学習に集中しやすい教室環境と授業の見通しを示した授業づくりは指定校だけでなく、多くの学校が実施し始めた。(小中学校)
- イ. 小規模校では、ペア、グループ、自由学び合い等共有化の工夫が指定校以外でも進んでいる。(小学校)

(3) 学校の実態に合った補充指導場面の推進

- ア. 小規模校の金丸小学校では、朝の学習において児童の課題に沿った支援を行い、ICTを活用することで効果が出ている児童がいる。
- イ. 大規模校の西原小学校では、朝の学習において、児童の課題に沿った支援を行うための日課の変更が行われた。
- ウ. 西原小学校の通級指導教室では、発達障害支援アドバイザーBの配置により、支援方法の検討、通常学級の授業の参観及び学級担任への助言をすることが可能となり、通級指導の内容を通常学級で生かすことが可能となった。

6. 今後の課題と対応

(1) 課題

- ア. 大規模校における校内支援体制の整備
- イ. 授業における課題の焦点化と全員参加の共有化の工夫
- ウ. MIM-PM以外のアセスメントの位置づけの明確化
- エ. 本市のICT環境下における支援ソフトの研究と整理

(2) 対応

- ア. 管理職研修の実施と校内委員会へのアドバイザー派遣
- イ. 先進地の視察と公開研究授業の実施と実践集作成
- ウ. アセスメントチャートの作成と検証
- エ. 先進地の視察と市内実践事例の収集

7. 問い合わせ先

組織名：大田原市

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| (1) 担当部署 | 大田原市教育委員会学校教育課 |
| (2) 所在地 | 栃木県大田原市湯津上5-1081 |
| (3) 電話番号 | 0287-98-7113 |
| (4) FAX 番号 | 0287-98-7123 |
| (5) メールアドレス | k.yano@city.ohawara.tochigi.jp |